【東北関東大震災、原発危機で困難な日本を覚えて/第5週】

イザヤ57:15

いと高くあがめられ、永遠の住まいに住み、その名を聖ととなえられる方が、こう仰せられる。「わたしは、高く聖なる所に住み、心砕かれて、へりくだった人とともに住む。へりくだった人の霊を生かし、砕かれた人の心を生かすためである。

イザヤ66:2b

わたしが目を留める者は、へりくだって心砕かれ、
わたしのことばにおののく者だ。

● 横浜栄区にある教会※にて、震災以来、ずっと連鎖祈祷が行われ、毎日、被災地のために祈祷会が持たれています。今までのところ自前でバスを出し、ボランティアを第五次グループまで整えて送り出しました。その教会の教師のおひとりのＫ先生※は特にネヘミヤ記１：３～８を意識させられているとのことです。この聖書箇所でネヘミヤはイスラエルの国家の罪、自分と自分の父の家の罪を真摯に悔い改め、神の恵みと憐れみとを請いましたが、日本の教会も今、真実で真剣な祈りに立ち、国家の罪を告白し、神の御前に国民のために執り成す働きをするよう強く迫られ、求められていると仰っています。

● 日本は今まで、何度も主イエス様から「中に入れて欲しい」と戸を叩かれながらも鎖国、国家神道、物質主義でキリストを退けて来た国です。そして今回も、もし日本がクリスチャン抜きで持ち前の「頑張り」だけで再生を成し遂げるなら、日本は今度こそ本当にキリスト者を必要としなくなるのでは、とＫ先生は強く迫られているということでした。

● どうしたらこの状況の中で日本人が主なる神に心を向けることができるでしょうか。このことを真剣に問いつつ、日本人の心が主に開かれるよう祈って参りましょう。

※JECA 本郷台キリスト教会：グリニッチ前任近藤泉・美貴子先生達の派遣教会で今ももっとも手厚くグリニッチの働きを支えてくださっている教会の一つです。Ｋ先生：木島正敏先生は本郷台／リーベンゼラミッションからモンゴルに宣教師として派遣されていた先生で立石の先輩宣教師。

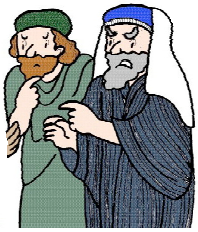
【 被災地のための祈り 】

●全知全能の主なる神、天の大祭司主イエスを崇め、感謝しましょう
●被災者・被災地の方々の直接の物質的、霊的必要のために
●被災地の復興のため：農家、漁業水産関係者、多くの企業の工場
●原発の危機回避、働く人々、避難生活をしている人々のために
●行政･関係省庁の人々、自衛隊、警察、消防、医療、ボランティア
●日本の教会が一致して地の塩、世の光として用いられるように
●日本人が偶像礼拝を悔い改め、真の神に立ち返るように。
●私たちと直接関わりがある人々のために

【先週の礼拝メッセージより】

● 取税人マタイに対して主イエスは「わたしについて来なさい」と言って弟子への招きをした。マタイは過去と決別するチャンスが与えられただけでなく、取税人として鍛えた几帳面さがやがて用いられ、第一福音書である「マタイによる福音書」を書くと言う栄誉な仕事が与えられた。マタイは自分が罪の中にある人間であることを十分に自覚していたので、主イエスの招きがあった時に「こんな罪人である私を価値あるものとしてくださった」と思ったであろうことは彼がパーティーを開いて仲間達を集めたことから伺える。

● 一方、イエスがマタイ達のパーティーに出席していることを見て批判的になっていたのはパリサイ人たちであった。パリサイ人は厳格な律法主義者であったが彼らこそ、本当に主イエスの赦しを必要としていながら、その必要を感じることができなかったのである。律法主義･･･神に認められようと努力する生き方がもたらす問題を整理すると：



1）<u>努力した結果、自分が出来ている人間だと思い始めると･･･</u> ・罪の自覚が薄れる ・神様を必要としなくなる ・人を見下し、優越感を持つようになる	2）<u>努力しても自分にはついていけないと思い始めると･･･</u> ・ある人は開き直る＝罪人 ・開き直らず頑張って疲れる ・神様が遠く離れていく ・劣等感にさいなまれる

● 親子関係と同じく、神は私たちが努力して善行をしたから愛して下さるのではなく、私たちが<u>子供</u>だからこそ愛し、立ち返るなら赦してくださるのである。良い行いはその愛に対する「感謝」から行う時に自己中心が入らない本物の善行になるのである。